

靈的ルネッサンス

Radnoty Istvan

ミュンヘン日本語キリスト教会

EMAWコースのことを初めて知ったのは2021年3月、ミュンヘン日本語礼拝後の時です。一人の兄弟が「男性グループに参加し聖書から一緒に学びませんか。スタートしたばかりで、今から入っても遅くないですよ。」と声をかけてくれた時でした。それを聞いた瞬間「初対面のメンバーと一緒にオンラインで学びをすることへの違和感と不安」とを思い、どのように断ろうかと最初は考えました。しかしその次に「久々に真剣に聖書を読むチャンスだ」と自分の思いを改めることができ、「とりあえず一回内容を聞きたい」と伝えました。



そして、一週間後予定されていた集会に自分も入れてもらうことになりました。いろいろな背景を持つメンバーの皆様と楽しい話ができ、90分のセッションがあつという間に終わりました。とても暖かく歓迎され、ぜひ継続的に参加するよう励ましの言葉をいただきました。今年の3月以降皆様と定期的に学び、分かち合い、祈りの時を持っています。それを通して様々なことについて考える機会が与えられて、実を言うところ学生時代以来初めての靈的ルネッサンスを経験しています。

神様との関係は自分で責任をもってケアしなければどんどん消えてしまうことに気づくことができ、少しずつ弟子訓練の基本に戻り始めています。日本語で暗唱聖句を覚える宿題はときに難易度も高いですが、自分の成長へ繋がると期待し妥協せず毎回準備を重ねています。また同じように取り組んでいる仲間がいると思うととても励まされるのです。

一つのハイライト：今回グループリーダーを務める永井兄弟と東京で実際会うこともでき、コーヒーを楽しみながら長話の時間が与えられたのです。最後になりますが、現在EMAWブック2で夫婦関係と子育てについて学びを続けており、ますます靈的に作り変えられていくに違いありません。

イエスキリストの侍 男性を人生の成功へと 導く学び

Every Man a Warrior は男性がキリストの弟子として、神様に喜ばれる人生を歩むための学びである。平凡な人生を生きるためではなく、人生の様々な領域での戦いに勝利し、神が意図した勇士となることを願う男たちのために編纂された。



Every Man A WARRIOR



「イエスキリストの侍」の恵み

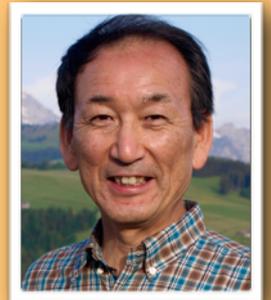
神様を愛すること

今井 朗

Bible&Worship Stuttgart

主にある皆さへん、お元気でお過ごしでしょうか？ 昨年8月に長年住み慣れたStuttgartからミュンヘン空港の北側Freisingに家内と共に引っ越しました。引っ越し直後からコロナ感染による長期のロックダウンのため会堂礼拝や家庭集会への参加が制限されました。

そのような中に在欧日本人宣教会の永井敏夫先生から「Every Man



A Warrior (イエスキリストの侍)」以下EMAWの紹介がありました。特に、男性だけの聖書の学びに興味があった私は、欧州在住の数名の兄弟に声を掛け、今年の1月から月2回のペースでZoom配信による「EMAW」の学びが始まりました。

学生の時代に救われ、45年の時が過ぎますが、途中で教会から離れたこと、毎日のディボーションが継続できない信仰の弱さ、いつも罪責感を持ちながらの信仰生活を歩んでいる私にとって神様に喜ばれる弟子として勝利の信仰生活を送るための学びは今までに経験したことがない新鮮な学びでした。

成長するためにどれだけ聖書知識を蓄えるかではなく、熱心に教会活動に参加することでもなく、神様を愛することが最も重要な土台であることを聖霊によって示されました。そしてディボーションを習慣的・律法的に行っていたことを悔い改めて、神様が願っておられる主を愛する関係に焦点を合わせるようになりました。(マタイ22:36-38)

又、スイス、ベルギー、ドイツ、日本からZoomを通して男性クリスチャンとして同じ悩み(夫婦関係、子育て、教会生活、お金など)を持っている兄弟との特別な関係は単なる聖書勉強ではなく、互いに祈り合い、励ましあう関係へと主が導いてくださっています。

この「EMAW」の学びを通して欧州に在住されている男性クリスチャンとの主にある交わりを深め、互いに励ましあい、共にみ言葉に養われて、遣わされている教会で仕える真の弟子として成長して行きたく切に願っています。

「継続は力なり」を実感する日々

永井敏夫

在欧日本人宣教会

私の住んでいる東京都町田市には市営プールがある。そこに併設されているジムに昨年から通うことにした。実は数年前にも数回行ったのだが、休止！昨年から10回ほど行ったと思うが、この数か月足が遠のいている！何だ彼んだと自分に都合の良い理由をつけ、ジムに行かない自分を我ながら意志が弱い人間だと思う。



そんな私にも昨年から途切れずに続いていることがある。

それがこのEvery Man A WARRIOR「侍」だ。毎週一度、または隔週で繋がり、互いにみことばを暗唱し、ディポジションの分かち合いをしている。この学びは男性限定で、夫婦関係、子育て、金銭管理、セックス、試練などのトピックについてテキストから学ぶ。

誰もが自由に思いを分かち合う安心して過ごすこの時間を、私の心は喜んでいる。

レッスンを進めていくというよりは、記されていることをしっかりと受け止めながら、互いに感想を分かち合い、思いを聴きあう時間が何とも素晴らしい。更に示された一節を自分のことばで表現する課題があり、まるで世界にひとつしかない自分訳を自分に向けて口ずさんでいるかのようだ。

物忘れが少しずつ増えてきて、もしかすると他の人に迷惑をかけつつある自分かもしれないが、みことばを何十回と口ずさんでいると少しずつ覚えるようになる。時間がかかればかかるほど、「ああ、神さま、あなたはこのみことばをもっと味わいなさいと言っているのですね。」と思うようになってきた。果たしてこのみことばのように生きているだろうかと思問することもある。

また、みことばを繰り返し口ずさむ中で、またディポジションをする際、同じグループの仲間たちのことを覚えて祈るようになったことも恵みである。ヨーロッパでも複数の国々の男性たちが「侍」に志願し歩んでいる。この侍志願者たちが三冊のテキストを終える頃には、以前より霊的な筋力がついた男性たちが歩み始めていることだろう。私も新たなグループでこのセッションをスタートしたいと願っている。

明日が良い天気なら、私は運動不足の解消も兼ねて、みことばを口ずさみながら散歩に出ようと思う。

EMAWについて：<https://emaw.jp/>

Every Man A WARRIOR



イエスキリストの侍の恵み

こんなアホな私でも

松林幸二郎

スイス日本語福音キリスト教会

欧州でも日本でも男子は教会ではなぜか少数派で肩身の狭い思いをしている。お喋りもぎこちなく、教会での存在感は薄く、パウロが長老となる決まりを手紙に書いてくれなかったら教師や牧師も女性が大半を占めていたのでと思う。実行するかどうかは別にして、弁の立つ男性は政治家や実業家、町の顔役になっている。当然、家庭集会や祈り会でも複数の男性がいれば上出来で、通常、借りてきた猫のようになる。

家庭や夫婦関係、子育てなど男性共通の問題や悩みはやはり同性でないと語りづらい。男性としてどうやって老い

を迎えるかは大問題で、これも異性とは話しづらい。特にヨーロッパ、そして都会以外に住む日本人にとっては同国人の男性に会うことは埋めがたい距離がある。同じキリスト者の男性となると山の彼方の空遠く、といった感覚である。だから男性だけの聖書の学び会や祈り会など夢また夢であった。

それが、過酷で矛盾だらけのコロナ規制の怪我の功名で、EMAWを知ることになった。それが、男性に向けられたセミナーで聖書を学び、お互いに祈り、意見を交換できるということで、思ってもいなかったかたちで夢が実現した。



パズルと一緒にラビュタの城へ飛ぶ！

宿題をやっていないことを気にしながら、月に2回のセッションを楽しむようになった。幸い家内も応援してくれている。成果を期待していたのかもしれないけれど、私は相変わらず散らかし屋で（なにを隠そう、私は猪年である！）物忘れがひどい。結婚して典型的日本人をずっとやってきて、家内や娘3人をあまり褒めず自慢にせず、感謝のことばも乏しい。愛情表現も絶望的にぎこちない。放り出されても文句はいえないのだが、三度の飯より料理が好きで、寿司から中華料理、地中海料理とバラエティに富むのでお抱え料理人としての価値を見いだしてもらったからに違いないと思っている。

こんな阿呆なつまでも新米クリスチャンを、この学びが始まってから、神様は愛してくださっていることを知って、日に幾度も神様に頭を下げている。この学びをリードしてくれている永井さん、大和魂と忍耐をもって受け入れてくれている侍仲間から感謝している。

EMAWの恵み

藤原誠

シオンの群教会

EMAWは、クリスチャン男性が実生活の中でみことばに生きようになるためのグループトレーニングプログラムで、私は現在、自分の父親世代の男性の方々のグループに混ぜていただいてオンラインで一緒にさせていただいています。

ミーティング自体は月二回ですが、テキストを使った日々のデボーションや暗唱聖句、テキストの予習が毎回の宿題となっており、最初はそれらが結構負担に感じていました。リーダーをしてくださっている永井さんが最初にこのEMAWミーティングのことを「互いに助けると言い合える交わり」という言葉で説明してくださいましたが、その言葉の通り、さばき合うのではなく、互いに励まし合い祈り合いながら、この地上の生活においてサタンに立ち向かうための霊的なトレーニングをさせていただいています。



同期受講のラドさん（ハンガリー出身）と。

全3巻のうち現在はまだ第2巻の序盤ですが、第1巻で学んだデボーションにおける祈りは「WARの祈り」と呼ばれるもので、WARはWorship(礼拝する)、Admit(罪を認める)、Request(願う)の頭文字です。私たちの祈りはともすればRequestだけのものになりがちですが、まずは神様がどういうお方かを思い出して礼拝をし、そしてありのままの自分自身を見つめて罪を告白し、それから願いを話す。そのうえでみことばを通して語ってくださる御霊の声に耳を傾ける。この順番が大切だということを私はこれまでのEMAWミーティングを通して強く実感させられています。

立場も経験も年の差も関係なく互いを「さん」付けて呼び合い、正直な思いや経験、課題や葛藤までも互いに共有し分かち合うことができる主にある「兄弟」の関係がEMAWミーティングを通して与えられていることに感謝しています。

Every Man A WARRIOR



“イエスキリストの侍”の恵み

御言葉に生きるために

川上寧(やすし)

Japanese Christ's Disciples
(VIANOVA)

このEvery Man A Warrior (以下EMAW)のプログラム(訓練)に参加できたのはとても幸いなことです。在欧日本人宣教会のメールの中で紹介されていた案内に心惹かれるものを感じながらも、日常生活での雑事をつい優先してしまう私の悪癖から、問い合わせをすることもなくただ時間だけが過ぎていました。

最初の案内を目にしてから数カ月経った頃、ヨーロッパの日本人キリスト者の間でもEMAWの訓練が始まったことを耳にし改めて、自分も参加したいという思いを強くしました。妻がその思いを後押ししてくれたこともあり、遅れての参加ではありましたが仲間に加えていただきました。

EMAWの特色は男性が人生において直面するあらゆる問題に対して、御言葉の光に照らされながら、正面から向き合うことです。男女共に学びあう場ももちろん必要ですが、男性特有の課題は男性同士、女性特有の課題は女性同士が分かち合い、学ぶことも大切だと思います。特に男性は、特別にそのような機会を設けなければ、なかなか腹を割って話すことができない方も多いのではないのでしょうか。私自身、この学びと交わりの時は貴重なものとなっています。



妻も公認のEMAW

また、EMAWはそれだけではありません。創設者のロニー・バーガー師はこう語ります。「男性が真に深いレベルで霊的に成長するのは、彼らが霊的真理を他の男性に教え始める時なのです。」学んだ者は教える者となり、キリストの弟子の輪が広がっています。共に学べる方、募集中です！

